



議員 江すみ 瀧

幼稚園の預かり保育

Q 来年度から、年間通して預かり保育を行うことを求める

A 認定子ども園の導入を議論するなかで検討したい

答 (子ども支援課長) 平成27年の子ども・子育て新制度の開始に伴い、幼稚園においても預かり保育の実施が可能となった。預かり保育を利用できる児童は幼稚園児ではあるが、保育所と同様に保育を必要とすることが要件となる。町では幼稚園に在籍している児童で、保育を必要として認定を受けている児童は現時点ではない。しかし、幼稚園の預かり保育は、保育所の待機児童解消に繋がる有効な施策であると考えており、認定子ども園の導入を議論するなかで検討したい。

幼稚園の預かり保育

問 昨年度より始まった保育園入園を希望する家庭が増えたが、受け皿が十分とはいえない状況である。このことから、幼稚園児で保護者の共働きを理由とする長時間保育を望む家庭には、来年度から年間通して預かり保育を行い、保育園に準ずる時間帯の保育を実施することを求める。

新型コロナウイルス感染症拡大予防

問 新型コロナウイルス禍における「第8期高齢者保健福祉計画および介護保険事業計画」の策定作業の状況と、今後の計画策定終了に至る日程について答弁を求める。

答 (福祉課長) 大きな影響はなく、予定通り進捗している。今後のスケジュールは、第5回(7月17日)に計画の施策体系・第6回(9月29日)に施策の展開内容・第7回(11月18日)に介護サービスの見込み量と保険料を協議し、来年にパブリックコメントと住民説明会を実施し、第8回(2月18日)に計画案および保険料案を協議し、町長へ答申される予定である。

問 地域の高齢者のサロン・居場所における、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための開催マニュアルの作成を求める。

答 (福祉課長) 高齢者にとってサロンや居場所



答 (福祉課長) システム上また人の目での確認を経たうえで、正しく支給手続きを行う。

問 特別定額給付金のオンライン申請をした方が、誤って郵送申請もしてしまった場合、どのように把握するのか。

答 (福祉課長) 特別定額給付金を申請する際は、申請書に「申請方法」を記入し、申請書に添付する

答 (福祉課長) 6月中旬時点でまだ申請書提出されず、給付金を受け取ってられない方は「申請手続きはお済みですか」との通知を送るとともに、申請を行うのに支援が必要な方には、民生委員やケアマネージャー・計画相談員・ケアワーカーなどと連携し、希望されるすべての方が受給できるように努めていく。

問 独居高齢者や障がい者の町民が特別定額給付金を受け取ることができないために、申請における町が行うべき対応は。

特別定額給付金申請書

令和 年 月 日	
住所	愛知県豊田市長
氏名	愛知市長
住所	
電話番号	

※特別定額給付金を申請します。申請書に添付する書類は、申請書の裏面に記載されています。また、他の市区町村に居住地の確認をさせていただきます。申請書に添付された書類が不足している場合は、記載内容の訂正を求めさせていただきます。申請書に添付された書類が不足している場合は、記載内容の訂正を求めさせていただきます。申請書に添付された書類が不足している場合は、記載内容の訂正を求めさせていただきます。

国保税の均等割課税について

Q 中学卒業までの子の均等割課税の廃止を

A 子の均等割課税は見直しができないかと感じている

問 「一人ひとりに課している」均等割は「一人頭割」になっているが、これを

問 国民健康保険税均等割について

答 (町長) 国民健康保険税の均等割は、加入者の世帯員の数が増えると保険料の額が増える。子どもの数が多いほど保険料負担が増加し、子育て世帯の経済的負担は大きくなっている。子育て支援の充実を進める観点から、見直しができないかと感じている。



ゆめまちテラスえち

答 (総務担当政策監) 組合健保や被用者保険には均等割はない。それらの保険料は、標準月額に対して保険料が算出されている。国保税の均等割は、政令の定めるところによるものである。

「ゆめまちテラスえち」について

問 「ゆめまちテラスえち」の理念と活用方針をどのように具現化し、「町の顔」に仕上げていくのか。

答 (町長) 住民の皆様が愛着と誇りを持って訪れたいような施設づくりと考えている。賑わいと活力ある拠点の実現や地域住民が施設に関わっていく仕組みづくりのもと、だれもが活躍できる場所を創出することとしている。

問 「ゆめまちテラスえち」の現状から、麻織物を通してどのような施設に仕上げていくのか。

答 (町長) 愛知高等学校との連携は大変重要な要素と言いが、具体的にどのように「連携」していくのか。



愛知高等学校・高等養護学校の正門

答 (町長) 一階においては麻織物組合が受託し、各事業を進めている。コロナ禍における情報等々を通して、近江上布を知り関心を持っていただくこともできた。企画運営委員会の方々の活発な発信をいただきながら、コンテンツ(中身)を創造していく。愛知高等学校として愛知高等養護学校との連携は、大変重要な取り組みの柱だと認識している。